

音楽理論セミナー

拍子記号とプロポルツィオーネ ～モンテヴェルディ作品を中心に～

- ・ヴェスプロにある「お前は美しい Pulcra es」の3拍子はどのような速さで演奏するべきだろうか？
- ・マドリガーレ集第7巻、第8巻に収められている冒頭のシンフォニアの途中にある3拍子は？
- ・『オルフェオ』第2幕の「私は帰ってくる Ecco pur ch'a voi ritorno」は3拍子なのに何故2拍子で書かれているのだろうか？

このような疑問を持っている人は多いだろう。そして、これらの疑問に対して真の回答を知っているという人は、ある意味で「嘘つき」と言わざるを得ない。というのも、どれくらいの速さで演奏しなければならないという正確な指示はどの理論書にも書かれていないからである。しかしながら、それらを推測するヒントが全く存在しなわけではないし、多くの理論書に目を通せば、ほぼ同じことを意味している事柄もある。そこで、このセミナーでは、1500年代から1600年代に出版されたイタリア語の当時の音楽理論書のみを読み解き、どのようなテンポ関係で2拍子と3拍子の部分を演奏するかという難題に迫り、それぞれ自分で解釈できるような基礎知識を提供するものである。

(勿論、イタリア語に通じていない方でも構いません、訳しながら説明していきます。)

日時：2012年10月19 (金) (A) 19:00-21:30、21日 (日) (B) 10:30-13:00 (C) 14:30-17:00

※希望する時間を一つお選びください。

受講料：3,500円 (日本イタリア古楽協会会員 3,000円) ※コピー代は実費を頂きます。

場所：京成線お花茶屋駅徒歩10分 ※地図は受講者の方にのみお渡しいたします。

お問い合わせ・お申し込み：yasuharufukushima@gmail.com

後援：日本イタリア古楽協会

講師：福島康晴

東京音楽大学大学院作曲科修了。これまでに作曲を西村朗、北爪道夫、小山順子、音楽学(モンテヴェルディ周辺)を金澤正剛の各氏に師事。大学院修了後バロック音楽に傾倒し、声楽を牧野正人氏に師事する。2006年にイタリア留学を決意し、声楽をアントネッラ・ジャネーゼ、ヴィンチェンツォ・マンノ、ビアンカ・マリア・カゾーニの各氏に師事する。またイタリア・ミラノ市立音楽院において「ルネッサンスのポリフォニー」をディエゴ・フラテッリ氏の下で学ぶ。2009年にミラノ大聖堂の楽長であったミケランジェロ・グランチーニ(1605-69)の論文とコンサートにより、満点・褒賞付きで修了。その後、自らアンサンブル・グランチーニを結成し、イタリア国营放送ラジオ”Rai 3”にて生演奏を行う。その他に演技指導をデダ・クリスティーナ・コロナ(演出家)、アンサンブルをマウラ・ガラッシ(バロック・ハーブ)の両氏より薫陶を受ける。また、ローディ市立音楽学校にてモンテヴェルディ周辺の音楽理論・演奏慣習をロベルト・ジーニ(ヴィオラ・ダ・ガンバ)に師事する。

これまでにイタリアで多くのバロックアンサンブルと共演する。ギズリエーリ(パヴィア)、コスタンツォ・ポルタ(クレモナ)、アルス・カンティカ(ミラノ)、ファンタジアス(ミラノ)、アンサンブル・ローマ・バロッカ(ローマ)、アンサンブルD.S.G(ボローニャ)、アンサンブル・フェスタ・ルスティカ(ミラノ)、イル・カント・ディ・オルフェオ(ミラノ)、ラ・ヴェルディ・バロッカ(ミラノ)、ヴァーゴ・コンチェント(ヴェローナ)、カンティンバンコ(ヴェローナ)、アンサンブル・オットット・バッハ(ベルガモ)、タリス・スコラーズ等。また、バロックオペラの出演も多く、これまでにモンテヴェルディ『ポッペアの戴冠』のネローネ役、カヴァッリ『ラ・カリスト』のメルクーリオ役、ペーリ『エウリディーチェ』のオルフェオ役、コルナッキオーリ『からかわれたディアーナ』のエンディミオーネ役(スペイン・ヒホン)、モンテヴェルディ『オルフェオ』の牧人役(チェコ・プラハ)等を演じる。

またミラノ市立音楽院の指揮科にも在籍し、エミリオ・ポマーリコ、杉山洋一、レナート・リヴォルタ氏の下で研鑽を積む。2010年にはミラノのテアトロ・ダル・ヴェルメにおいて、オーケストラ『イ・ポメリッジ・ムジカーリ』を、2012年にはミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団を指揮し好評を博した。